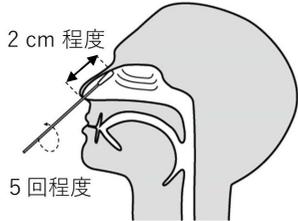


1

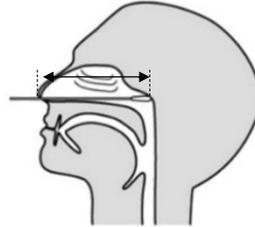
検体採取

(1) 鼻腔ぬぐい液



キット付属の綿棒を鼻孔から **2cm程度** 挿入し 鼻腔壁に沿って ゆっくり **5回程度回転・5秒程度** 静置 綿球を湿らせる

(2) 鼻咽頭ぬぐい液



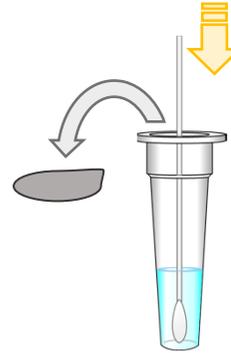
成人 10cm 程度
小児 5cm 前後

キット付属の綿棒を鼻腔孔から 耳孔を結ぶ線にほぼ平行に **鼻腔底に沿ってゆっくり挿入し 抵抗を感じたところで止める 10秒程度そのままの位置で保ち** 鼻汁を浸透させる

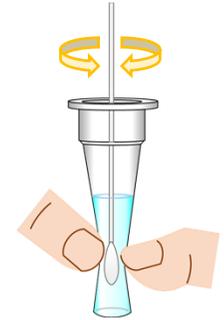
2

検体抽出

綿球を指ではさみながら **左右に5回程度回転** させる



検体希釈液のチューブ封シールをはがし 検体採取した綿棒を検体希釈液に浸す

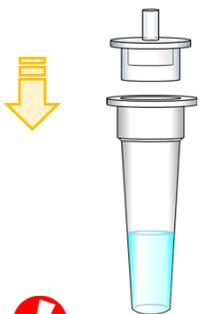


綿球内の検体をしぼり出し ながら綿棒を取りだす

3

試料滴下

ろ過フィルタを チューブにはめる



試料滴下部の穴に ゆっくりと **4滴** 滴下

ゆっくり **4滴** 滴下

滴下量(4滴)を守ってください

奥まで挿さっていることを 確認してください

安定した水平な場所に **15分間** 置く



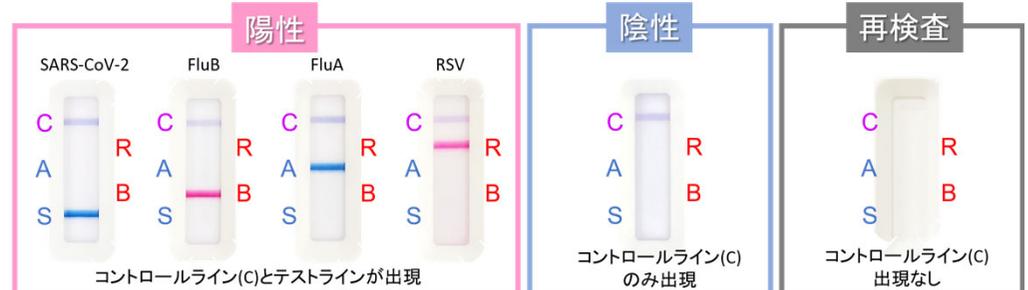
4

結果判定

出現したラインを確認・判定します

C(紫) : コントロール **R(赤)** : RSウイルス
A(青) : FluA **B(赤)** : FluB **S(青)** : SARS-CoV-2

- ・ラインの位置 : 本体に印字している文字(C/R/A/B/S)の上下幅内であれば有効
- ・ラインの濃さ : 薄く見えるものも目視で確認できれば有効



使用できる検体種は何ですか？

- 鼻腔または鼻咽頭ぬぐい液です。 唾液は使用できません。

試料滴下後 15分経過よりも早くテストラインが出現しました

- 15分経過以前にラインが出現した場合も、コントロールラインが出現していれば陽性判定が可能です。
- 最終結果判定は 15分経過時点で、ラインの出現の様子を必ず確認してください。

試料滴下から15分以上時間が過ぎてしまった

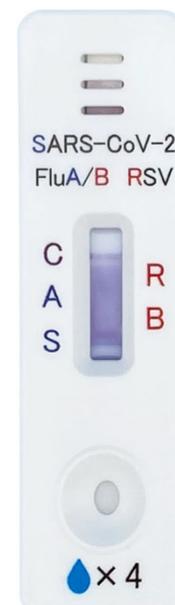
- 判定時間を過ぎてからは 結果判定に使用できません。

判定窓全体に薄い紫色が広がり ラインが不鮮明で判定できない *1

- 試料滴下量が過剰であることや、テストデバイス内のメンブレンの吸湿などによる
- 滴下した試料の展開不良が考えられます。
- 試料滴下時には、フィルタの先端をデバイスから少し離し、真上からゆっくりと正確に4滴滴下してください。
- フィルタをデバイスに近づけすぎると、液滴が正常に形成されずに
- 試料が過剰量添加されてしまうことがありますのでご注意ください。

コントロールライン(C)が出現しない *2

- コントロールライン(C)が確認できない場合は、他のラインの有無にかかわらず判定不可となります。
- 検体の粘性の影響・試料の滴下量が過剰・テストデバイスの不良などが原因として考えられます。



*1 試料を過剰に滴下した場合の例



*2 コントロールライン(C) 無しの例